

売薬の意匠あれこれ

〈その15〉 プラスチックモデル

北多摩薬剤師会会長 平井 有(ひらい・たもつ)

国産初のプラスチックモデル*は、東京都台東区にあったマルサン商店(後のマルサン、昭和43年(1968)倒産)が今から60年ほど前に発売した「ノーチラス号」(アメリカ海軍の原子力潜水艦)です。

青島文化教材社、タミヤ、ハセガワ、フジミ模型などプラスチックモデルのメーカーは静岡県に多く、平成28年(2016)の国内出荷総額190億100万円のおおよそ9割を静岡県**が占めています。その背景には、天竜川や大井川などの水運を使い、木曾などから木材を運んだことや、徳川幕府が静岡浅間神社社殿や久能山東照宮を造営するために職工を集めたことで、家具製造や漆塗り、竹器などの製造が盛んで、後に木製模型飛行機や模型教材のメーカーが多かったことにあるといわれています。

昭和35年(1960)には今井商店(後のイマイ、平成14年(2002)解散)が「鉄人28号」を発売し、キャラクターモデルのジャンルが誕生しました。その後、「スロットレーシ

ング」や「ガンプラ」という呼称まで生まれた「機動戦士ガンダム」のシリーズ、「ミニ四駆」など、プラスチックモデルは多様化していきました。

当然、売薬(OTC薬)業界でも子供たちに人気のあるプラスチックモデルをおまけに採用しました。今回ご紹介するのは、鎮痛薬「ノーシン」(荒川長太郎合名会社、現アラクス)の販促品です。「ノーシン」は、大正7年(1918)から翌年にかけて世界的に大流行したスペインかぜの際に販売を始めたとされています。商品名の由来は「ズキズキ痛んでいた脳がシーンとなる」「脳が新しくなる、リフレッシュする」「薬や農業の神様である神農様の逆読み」など諸説あります。

*「プラモデル」という名称は商標登録されており、現在、日本プラスチックモデル工業協同組合に加盟する企業のみで使用が許されている。

**「平成29年工業統計調査品目編」(総務省・経済産業省)より。同統計での製造品名はプラスチックモデルキット。



レーシングカー、戦闘機、戦車、機関車など
(箱:縦90mm×横123mm)

1/16ゼロハンバイクシリーズ(箱:縦120mm×横185mm)



変身メカ スペースアタッカー(箱:縦105mm×横53mm)



ノーシン錠(左から)荒川長太郎合名会社時代と現在のパッケージ